

小学4年生を対象としたバリアフリー授業の実践と振り返り

Practice and consideration of education to understand disability
for 4th grade elementary school students
—Case study of Yokoyama Daiichi Elementary School 4th grade class 2

内海 紫苑, 小貫 遥香, 渡邊 七瀬, 瀬元 雅人
指導教員 眞保 智子

法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 眞保ゼミ

キーワード：バリアフリー, 心のバリアフリー, 社会モデル

1. はじめに

小学生を対象に共生社会に向けて重要な考え方である「バリアフリー」について伝える法政大学現代福祉学部眞保ゼミの活動は、コロナ災禍の最中である2021（令和3）年に始まった。2月に大学近隣の八王子市立柵田小学校、緑が丘小学校、横山第一小学校のご協力を得て、バリアフリーに関するオンラインクイズを企画した。当時は家庭の通信環境が必ずしも整備されている状況ではなく、参加者は3名であったが、眞保ゼミ6期生の先輩たちは小学生の様子に大いに手ごたえを感じたと聞いている。

オンラインクイズイベントでご縁をいただき、横山第一小学校緒方礼子校長先生（当時）より、4年生を対象に総合学習でのバリアフリー授業の提案をいただき、2021（令和3）年5月26日に眞保ゼミ8期生が、翌年2022（令和4）年9月12日に眞保ゼミ9期生が授業を実施した。本発表では、2022（令和4）年度に眞保ゼミ9期生が行ったバリアフリー授業の内容をご紹介しますとともに、配布したワークシートをもとに授業の振り返りと今後の展望についてご報告する。

2. 実践研究方法

(1) 対象

八王子市立横山第一小学校4年2組31人

(2) 授業タイトル

バリアフリーについて考えよう！

(3) 授業の目的

設備のバリアフリー、心のバリアフリーを理解し、困っている人を見かけたときに、どのような声掛けが望ましいか捉える。

(4) 授業のめあて

- ・バリアフリーのことを知ろう！
- ・今日学んだことを町でやってみよう！

(5) 授業で使用したアンケート

ふりかえりシート	
2022年9月12日（月）	
年 組 番 名前 _____	
○今日のじょうぶようはたのしかったですか？(まるをつけてね)	
☹️ 😊 ☹️	
○もし、目が見えなくてつえをもっている人がフワフワしていたら、あなたはどう感じますか？	
○今日、感じたことをしゅうにかいてください。	
○大学生からのコメント	

3. 授業内容

(1) 授業における工夫

事前に作成したパワーポイントやクイズを用いた。クイズは参加型にしたことで、より実践的な学びにつなげられるよう努めた。

(2) 内容

初めに法政大学の授業風景や学食などを紹介した。また、大学のバリアフリー設備や、ゼミの外部学習で見学した日本財団ビルの日本トップクラスのバリアフリー設備を紹介し、新たな発見を促した。バリアフリーには、「設備のバリアフリー」の他に「心のバリアフリー」があることに重点を置いて説明し、その後、心のバリアフリーの理解の確認をクイズ形式で行った。

最後に授業の振り返りをアンケートに記入してもらった。



4. ワークシートを用いた授業の振り返り

(1) 分析方法

質的調査法を用いて、授業内に実施したアンケートの問1（もし目が見えなくて杖を持っている人がウロウロしていたら、あなたはどうか話しかけますか?）、問2（今日感じたことを自由に書いてください）を集計し、児童が授業を通して2つのめあてを達成しているかを分析した。

問1の設問は授業内で実施した声の掛け方クイズと同一内容になっており、クイズの模範解答は「何か困っていることはありませんか。」とした。これには、相手が最初から困っている人やできない人であると決めつけることなく、相手を思いやって声をかけるという意味がある。よって、困っているか、大丈夫か、どうしたかなど相手の状況を尋ねる言葉を記述した児童を1、それ以外を0として集計した。

問2の設問は児童が授業の感想を自由に記述する項目になっており、オープンコーディングを用

いてアンケートに書かれた記述文を意味内容に従って単文に分類し、30個のラベルを作成した。うち、児童のめあて達成度と関連しているラベルを検討し、分析を行った。

(2) 分析結果

めあて1を達成した児童はクラス全体の31人中16人（52%）であり、その中でもバリアフリーを十分に理解したと認められるのは12人（39%）であった。

めあて2を達成した児童は31人中11人（35%）であった。

(3) 考察

授業では白杖のクイズで全員が正解を選んだことから、実際の感触としては多くの児童が理解してくれていたように感じた。しかし、ふりかえりシートの分析をした結果、めあて①を達成した児童はクラスの52%、めあて②を達成した児童はクラスの35%であり、数字的に見るとめあての達成度が低いという結果になった。そこで、授業で得た感触とアンケート結果のギャップを課題とした。

5. まとめ

2つのめあてを記述していない児童はクラス31人中5人いた。一方のめあてを記述した児童は21人、両方のめあてを記述した児童は5人だった。

次にふりかえりシートの考察である。問2の設問を自由記述にすることで、児童が授業で抱いた率直な感想や一番印象に残ったことを聞き取ることができたと考える。

次に授業の展望である。課題に関しては、児童の理解度をより反映できるふりかえりシートを作成することで解決すると考えた。このふりかえりシートは授業のまとめのような構成にすることで、児童が見返した時にふりかえりやアウトプットがしやすくし、児童の理解度を適切にはかることができると考えた。